

メイシー・アンドレア

2016/11/26

ファイナル・エッセー

私はサービス・ラーニングのクラスから多くのことを学びました。とりわけ、教室の経営や、教材を作ること、外国語と異文化の教え方です。その上、サービス・ラーニングのアウトカムを学びました。このアウトカムは「自己認識と社会意識」、「サービスと社会的責任」、「コミュニティと社会正義」、と「多文化のコミュニティの発展とシビックの言質」です。このアウトカムは「自己認識と社会意識」、「サービスと社会的責任」、「コミュニティと社会正義」、及び「多文化のコミュニティの発展とシビックの言質」です。学期中、私はキング小学校でこのアウトカムの課題に触れました。

ヘザーとクリントンと私はキング小学校に行って教えました。私たちのクラスは15人の生徒がいて、3人は女の子、12人は男の子です。児童は大半がメキシコ系アメリカ人です。今までは、いろいろなトピックについて10回のレッスンを教えてきました。

最初のレッスンでは児童にいろいろな日本の物を紹介しました。例えば、サムライや相撲、着物や下駄、お茶、桜や食べ物などです。また、世界の地図のなかで日本がどこにあるのかを教えました。次のレッスンでは、カタカナで児童の名前の書き方を教えました。しかし、このレッスンはちょっと教えることが難しかったです。なぜなら、

私たちは、あまり組織化されていなかったからです。また、児童たちはカタカナを覚えることができませんでした。

3番のレッスンのテーマは「番号」でした。1から10までを教えました。この日には楽しいゲームをしました。学生は1枚アイスクャンデーの棒を取って、アイスクャンデーの棒に書かれた番号を日本語で言いました。このゲームは児童にとって良い課題でした。児童たちは楽しかったと思います。私たちは次のレッスンの「折り紙」のために番号を使いました。折り紙の箱と兜とカエルの作り方を教えました。私の好きなレッスンは「妖怪」でした。なぜなら、私自身が児童たちとレッスンするのが楽しいからです。まず、狐、鬼、と河童を紹介しました。次に、児童を三つのグループに分けました。それぞれのグループには一つの妖怪を教えました。それぞれのグループではその妖怪のマスクを作りました。その後、「妖怪ウォッチ」というアニメを見ました。このアニメはディズニーチャンネルにあるので、児童たちは知っていました。

次のレッスンは「体」でした。まず、日本語で「頭」、「肩」、「膝」、「足」、「目」、「耳」、「口」と、「鼻」の発音の仕方を教えました。その後、「頭、肩、膝、足」の歌を歌いました。このレッスンはレッスン8につながります。「顔」のレッスンでは顔の部位に的を絞りました。なぜなら、「フクワライ」というゲームをしたからです。このゲームのために、顔の部位の単語を練習して、「下」、「上」、「右」、「左」の発音を教えました。

レッスン7は「季節と色」でした。六つの色と季節を教えました。色は「青い」、「赤い」、「黄色」、「オレンジ」、「ピンク」と、「緑」です。その後で、日

本語と英語のカードをマッチさせるゲームをしました。最後に、児童たちは季節の着物の絵に色をぬりました。

レッスン9は「動物の名前と鳴き声」でした。まず、新しい単語を教えました。例えば、「犬」、「猫」、「カエル」、「ライオン」、「ネズミ」とこれらの動物の鳴き声です。その後で、英語と日本語と名前と鳴き声をマッチのゲームをしました。児童たちはゲームが楽しみました。

最後のレッスンは「復習」でした。まず、番号を練習して、小さい試験をしました。次のトピックを「色」、「季節」と「挨拶」に変えて、同じようなことをしました。後で、日本の文化の活動をしました。例えば、折り紙を作ったり、妖怪の絵を描いたり、ジャンケンをしたりしました。私たちはそれぞれのレッスンを教え、子供たちに日本の文化をより深く理解させました。

キング小学校で教えた時、サービス・ラーニングの成果を満たしました。まず、「自己認識と社会意識」とは学生が個人的および職業的アイデンティティの社会的、文化的、市民的側面についての理解を深めています。サービス・ラーニングを行うことにより、コミュニティーには存在しないかもしれない日本語を学ぶ機会を提供しています。また、私たちは児童たちが他の国の文化をわかることを奨励したいでした。理由は、この児童たちは、他の人をより受け入れることができるからです。

私たちは最初のレッスンでこのゴールを達成しました。このレッスンは「イントロダクション」でした。まず、私たちは日本と日本の文化の導入をしました。例えば、

折り紙や着物、日本書記やサムライ、相撲などについて話しました。この概念を紹介することで、ステレオタイプを止めたかったのです。この課外授業前に、児童たちは日本の物が中国の物と思いました。その後、私たちはこの物を説明しました。だから児童たちは、日本がどのようにユニークかをよりよく理解することができました。

さらに、CYP のルールは児童が疎外化を阻んでいます。CPY は子供たちが全部活動に含まれていることを確かめることでこれを達成します。例えば、児童たちは遊ぶ時、CYP のボランティアは、子供たちがよく一緒に遊んでいることを確かめます。私たちも疎外化を阻みました。例えば、私たちのレッスンでは、いつもある児童が一人で遊ぶことがありました。私はいつもこの児童がほかの児童と一緒に活動をするのを勧めます。しかし、この児童と一緒に活動したくないということがあり、私はこの児童と他の児童と一緒に活動をします。それで、この児童が寂しさを感じることはありません。また、他の児童たちはこの児童が一番好きな児童を思い出せません。

私たちのレッスン中、私たちは児童たちの個人的なアイデンティティを育成することを手伝ってくれました。他の文化のアイデンティティを理解することもできます。例えば、レッスンの初めにトピックを導入した時、いつも児童たちの考えを頼みました。それで、児童たちはトピックの自分の意見を作ることができます。結果は、児童たちのよりいい個人的なアイデンティティを作ります。なぜなら、児童たちは自分の意見を説明ができることと自分の文化と日本の文化を比べることからです。また、児童たちは日本の文化を学ぶので、他の文化のアイデンティティを理解しました。なぜなら、児童たちは他の国がいろいろな文化があることを理解できることです。

次のアウトカムは「サービスと社会的責任」です。このアウトカムとは大学生は、自分の分野で専門家の社会的責任についての理解を深めます。また、私たちの専門的な活動と知識が長期的な社会福祉の向上にどのように貢献できるかを分析します。レッスン中、私は児童たちに教えることを楽しみました。彼らもとても楽しかったようです。また、児童たちと対応することが面白かったです。しかし、私は教師の責任を理解しています。例えば、私たちはソーシャルメディア上で繋がることはできません。これは適切な学生と教師の関係を維持するためです。児童たちは教師や他の人達を尊重することを学びました。

例えば、レッスン2では、教室のルールを教えました。日本語で「立ってください」、「座ってください」「静かにしてください。」、と「手を上げてください」を教えました。そして、毎レッスンの初めに、このルールを復習しました。なぜなら、児童たちはヘザーさんとクリントンさんと私を尊重する必要があったからです。時間が経つにつれて、児童たちはこれらのフレーズをどのように使うかを学びました。その結果、児童たちは他の児童の態度が悪くなった時にこれらのフレーズを使用しました。これはポジティブな例です。なぜなら、児童たちの行儀を正すことができるからです。

一方、最後のレッスン中、良くないこともありました。四年生はたくさん悪口を言いました。一年生は私に中指立てて見せました。私は児童に何遍も「止めて」と言いました。でも、児童達は止めませんでした。だから、私はCYPのSさんにこの問題について話して、Sさんは状況を改善しました。将来のために、正しい行儀と敬意は必要です。例えば、高校で生徒の行儀が悪ければ、教師は学生を処罰します。だから、Sさ

んが去った後で、児童に正しい行儀が必要なことを教えました。私は児童たちに彼らの行儀が自分たちの未来にどのように影響するかをおしえたかったです。

この二つの場合は「サービスと社会的責任」のアウトカムに関連していったので、それぞれの場合が児童たちの短期および長期の福祉に影響しました。教師としての私の責任は、子供たちに社会での行動の仕方が身についているか、ということを確認することです。

しかも、この幼い児童たちに日本について教えることによって、将来彼らは他の文化をより受け入れることができ、理解することができます。それによって、優れたグローバルな人材となります。他の児童は、若い時にいろいろな文化について学ぶ機会を得られないかもしれません。それゆえに、キング小学校の児童は将来のための準備をより良い環境で行うことができます。

「コミュニティーと社会正義」のアウトカムとは、アクションがコミュニティーと社会における公平と不平等の両方をどのように育成するのかを評価することです。コミュニティー・スキャンのプロジェクトから、私たちはキング小学校のコミュニティーには低所得者がいることを習いました。結局、教室には児童が多いし、小学校の予算が少ないため、すべての児童を手伝うことができないのです。また、場合によっては、家が小さいので、児童たちは宿題をすることができません。だから、CPYはこの児童たちを手伝います。例えば、CPYは宿題を助け、課外課程を提供し、自尊心も促進しています。私たちも毎水曜日とレッスンの前に、児童たちの宿題をすることを手伝いました。食堂で私は歩き回って、それぞれの児童に「宿題を手伝いましょうか」と聞きます。

した。そうすると、みなさんは宿題を助けることが必要であれば、私が手伝えることを知ります。

さらに、児童たちには他の国について学ぶチャンスが与えられています。前述したように、私たちのレッスンの前に、児童たちは何でも日本の物が中国の物と思ったからです。だから、私たちのレッスンはステレオタイプを止めることが手伝い、児童たちに他の国について学ぶチャンスが与えられています。しかし、CYPプログラムの子供だけが、他の文化を学ぶことの機会を持っています。だから、キング小学校の他の児童に公平ではありません。一方、そのような課外授業を持つ機会があっても素晴らしいと思います。

キング小学校のコミュニティーは低所得者がいます。また、大半のメキシコ系アメリカン人です。しかし、私たちは、民族的または社会的バックグラウンドにかかわらず、児童を手伝い支援します。私たちは日本の文化を教えるためにキング小学校に行きました。私たちのゴールは理解とアクセプタンスを教えることでした。私たちは児童たちのバックグラウンドのアイデンティティについて判断するためにそこに行きませんでした。私たちはみなさんのために、平等がほしいです。

最後のアウトカムは「多文化のコミュニティーの発展とシビックの言質」です。このアウトカムとは大学生は多様な個人、グループ、と協力してより平等なコミュニティーを構築します。日本について教える時、私たちのゴールは多文化理解を広めることでした。私たちはそれぞれのレッスンでこのゴールを達成しました。すべてのレッスン

で、子供たちは考えや意見を分かち合いました。考えや意見を分かち合う中で、私たちは児童たちの文化を習いました。メキシコの文化とメキシコ系アメリカンの文化です。

たとえば、「妖怪」のレッスンで、児童たちは妖怪とはどんなものかについて話し合いました。児童たちは吸血鬼や狼男、妖精などを言挙げました。しかし、一番面白い化物は「ラロローナ」でした。「ラロローナ」はメキシコの神話です。この子供たちはメキシコの遺産なので、すでに多文化です。しかし、私たちは日本について教えることにより、より文化の交流を促進しています。

「妖怪」のレッスンはとても多文化的な経験でした。なぜなら、日本の妖怪とアメリカのハロウィーンを結びつけたからです。この2つのアイデアを関連させることで、学生はトピックとのより良いつながりを形成できました。日本語として問題はないが、トピックが何を指しているのか不明確。また、このレッスンで、「妖怪ウォッチ」というアニメを見ました。私は児童たちがすでにこのアニメを知っていたことに驚きました。それはディズニーチャンネルで放送されていたのです。つまり、児童たちは知らず知らずのうちに他の文化を体験しているのです。それで、子どもたちは好きなキャラクターが日本の神話の中に登場することにとっても驚いていました。

コミュニティーの平等と社会的正義を生み出すために、私たちは尊敬と理解を奨励しました。だから、教室のルールを作りました。なぜなら、私たちは新しいボランティアなので、あたりまえのことだが児童は新しい友達ができているだろうと思ったからです。それで、私たちのルールは尊敬を奨励しました。例えば、話す前に手を上げることです。また、CPYのルールも尊敬と礼儀と理解を奨励しました。毎日、CPYと児童た

ちは CPY のルールを話しました。このルールは尊敬と礼儀と理解について決めています。だから、もし児童たちはいつもこのルールを思い出すなら、このコミュニティーはもっと平等と社会的正義の実現に近づきます。なぜなら、児童たちは他人と適切に行動する方法を知っているからです。

ようやく、サービス・ラーニングのクラスとキング小学校から多くのことを学びました。まず、私のゴールは、次の授業の前に学生たちがレッスンを完全に理解でることでした。だから、ゆっくりはなしたり、何度も繰り返したり、たくさん練習させたりするつもりです。ペースを遅くし、グループで練習することはいいアイデアだったと思います。それで、児童たちはレッスンの内容を思い出してくれました。だから、我慢は大切だと思います。

二義的に、授業中に子供たちをコントロールすることもかなり必要です。なぜなら、児童たちは時々レッスンの活動をする代わりによく遊ぶからです。前述したように、授業中に行儀の問題がありました。特に最後のレッスン中にありました。だから、良い教室の管理が必要だと思います。ときどき、レッスンがとても楽しい時、子供たちはより行儀よくしました。最終的には、私たちはより良いコントロールが必要でした。キング小学校に教えた後、自分の教え方のスキルが向上し、私のゴールを達成したと信じています。